

# 事務事業評価シート2(一般事業)

## 1 基本情報

		事業番号	0110/100560/02/11	事業の種類	4	
年度	19	事務事業名	交通安全意識啓発事業	作成日	平成21年1月20日	
予算事業名	交通安全対策推進事業		担当部課名	まちづくり推進室		
政策名	すこやかに暮らせる、心かようまちづくり					
施策名	防犯・交通安全対策		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規						
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民				
	誰(何)を対象として	通学、通園する小中学生及び、園児、高齢者等市民全般				
	意図(どのような状態にしたいのか)	交通弱者である子供達に広報媒体(広報車・旗)によりアピールし、交通事故を防止する。交通安全啓発活動を通じ、市民の交通安全に対する意識の高揚を図る。				

## 2 事業の概要 Do

実施の概要		交通安全教育、キャンペーン等の実施により交通安全意識の高揚と交通事故防止を図る。				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	キャンペーン	回	27	30	20	20
	交通安全教室	人	3,720	4,851	5,640	3,000

## 3 投入資源

		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.480	0.540	112.5	0.650	120.4	0.600	92.3	
	臨時職員	0.350	0.350	100.0	0.350	100.0	0.400	114.3	
支出内訳	人件費	6,063,109	6,239,651	102.9	7,284,854	116.8	6,933,649	95.2	
	事業費	630,163	814,500	129.3	823,805	101.1	774,000	94.0	
	合計	6,693,272	7,054,151	105.4	8,108,659	114.9	7,707,649	95.1	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	6,693,272	7,054,151	105.4	8,108,659	114.9	7,707,649	95.1	
	合計	6,693,272	7,054,151	105.4	8,108,659	114.9	7,707,649	95.1	

## 4 評価指標

【有効性】

指標名1		キャンペーン実施数							
指標説明(式)		キャンペーン実施数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
回	目標	24	24	100.0	20	83.3	20	100.0	
	実績	27	30	111.1	20	66.7			
指標名2		交通安全教室の参加人員							
指標説明(式)		交通安全教室の参加人員							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
人	目標	3,500	3,500	100.0	3,000	85.7	3,000	100.0	
	実績	3,720	4,851	130.4	5,640	116.3			

【効率性】

指標名1		交通安全教室参加者一人当りにかかるコスト							
指標説明(式)		(事業費+人件費)÷交通安全教室参加者数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	1,799	1,454	80.8	1,438	98.9	2,569	178.7	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	高齢者を中心に増加傾向にある交通事故の予防のため、交通安全教室や事故防止キャンペーンは必要である。	5	5
	市民ニーズ	交通事故に遭遇しないため、子供、保護者及び高齢者への交通安全教育の実施は市民からのニーズが高い。		
有効性	成果目標(改善)達成度	高齢者を中心に交通安全教室の回数を増やし、より多くの高齢者への交通安全意識を高めた。	5	5
	成果の向上	19年の相生市における交通事故(人身)発生件数△25件及び死亡事故件数△3件減少した。		
効率性	コストの節減	啓発活動や交通安全教室の実施回数の増によりコストの削減ができた。	4	4
	手段の最適性	警察、安全協会等と連携しながら、交通安全運動期間中を中心に安全教育及び啓発活動を増やし、市民の交通安全意識の高揚が図れた。		

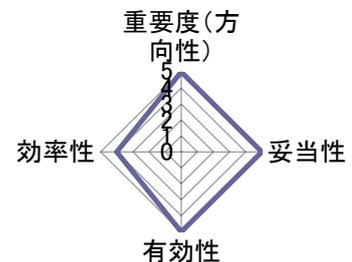
6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	事故防止には教育活動を反復し、参加する機会を増加することが重要だが、参加しない高齢者への対策が必要である。

H19→H20予算反映額

(1) 評価結果を踏まえた19年度の改革改善内容

年度の実施	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	高齢者対象の交通安全教育
H19→H20予算反映額		△71千円



(2) 20年度の実施方針

警察・関係団体等と連携し、啓発活動・交通安全教室の充実を図る。また、参加・体験型教室の実施を検討し、校区・関係団体等、幅広い市民に参加を呼び掛ける。

検討の有無	—
総合指標	26.5